a chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Selected papers from the IXth International Congress of Primatology*, (in press).
5) Fujita, K. (1982): An analysis of stimulus control in two-color matching-to-sample behaviors of Japanese monkeys (*Macaca fuscata fuscata*). *Jap. Psychol. Res.*, 24, 124-135.
6) Fujita, K. (1983): Acquisition and transfer of a higher-order conditional discrimination performance in the Japanese monkey. *Jap. Psychol. Res.*, 25, 1-8.

報告・その他

1) 浅野俊夫・樋口義治 (1983): ニホンザル野生群における学習行動の伝播。文部省科学研究費研究成果報告書。
2) 小嶋祥三 (1983): 霊長類の音の記憶に関する研究。文部省科学研究費研究成果報告書。
3) 松沢哲郎 (1982): 霊長類の子育て私見。発達, 12, 92−94。
4) 松沢哲郎 (1983): 食物嫌悪条件づけの基礎。文部省科学研究費研究成果報告書"食物嫌悪条件づけによる野生生物の食性の統制", 7−18。

学会発表

1) Acquisition and generalization of numerical labeling by a chimpanzee.
Murofushi, K., Matsuzawa, T., Asano, T. & Kubota, K.
第9回国際霊長類学会 (1982)
2) ニホンザル野外群におけるオペラント行動の獲得(3)
樋口義治・浅野俊夫
日本心理学会第46回大会 (1982)
発表予稿集, 111
3) 行動観察用電子メモ装置とそのデータ処理について
浅野俊夫・樋口義治
日本心理学会第46回大会 (1982)
発表予稿集, 435
4) 閉鎖食物環境におけるニホンザルのFR反応
浅野俊夫
日本基礎心理学会 (1982)
5) ニホンザル野外群におけるオペラント行動の獲得(4) ボスザルのシェーピング
樋口義治・浅野俊夫
日本基礎心理学会 (1982)
6) 霊長類の音の記憶に関する研究
小嶋祥三
日本心理学会第46回大会 (1982)
発表予稿集, 115
7) チンパンジーにおける図形パターンの知覚
松沢哲郎
日本動物心理学会第42回大会 (1982)
動心年報, 32, 40
8) チンパンジーにおける数の命名の習得と般化
松沢哲郎・室伏靖子
日本心理学会第46回大会 (1982)
発表予稿集, 114
9) ニホンザルの奥行視の発達に関する研究(2)
原 政敏・辻敬一郎・林部敬吉
松沢哲郎
日本心理学会第46回大会 (1982)
発表予稿集, 83
10) 飼育チンパンジーの出産時行動観察2例
熊崎清則・松沢哲郎・松林清明
第27回プリマーテス研究会 (1983)
抄録, 12
11) 乳児期のニホンザルにおける姿勢反応
竹下秀子・田中昌人・松沢哲郎
第27回プリマーテス研究会 (1983)
抄録, 40
12) ニホンザルにおける食物選択の戦略
松沢哲郎・後藤俊二・東 滋
長谷川芳典・和田一雄
第27回プリマーテス研究会 (1983)
抄録, 53
13) ニホンザルにおける「同・異」概念の形成
── フリーオペラントの効果 ──
藤田和生
日本心理学会第46回大会 (1982)
発表予稿集, 113

社会研究部門

川村俊蔵・東 滋
鈴木 晃・小山直樹
森 梅代・足沢貞成

研究概要

1) ニホンザル地域個体群の研究 ── 木曽

川村俊蔵

木曽研究林において，3個の大型群と1個の小型群の遊動ならびに群間関係に関する調査を行っている。

2) ニホンザルの社会生態学，とくに自然群の環境利用とグルーピング・社会構造

東　滋・足沢貞成

ニホンザルの群れの連続した分布をゆるす環境で，遊動する群れがしめす生活と社会現象をとらえなおすために，屋久島と下北半島西部の地域個体群について継続的な調査を行っている。

3) ニホンザルの地域個体群の動態と群れのスペーシングに関する研究

鈴木　晃

上信越ニホンザル研究林，房総半島において，ニホンザルの地域個体群の土地利用，個体群動態，遊動におけるスペーシングの問題，オスの群れの離脱等に関する調査を継続しておこなっている。

4) サルの耕地回避学習実験

川村俊蔵

昨年にひきつづき猿害防止のための実験を行ったが，今年はサル自身によって煙火を爆発させる感応式システムを考案し，12回の作動例をえた。技術的問題にとどまらず，サルの反応行動についても，多くの興味ある知見がえられている。

5) ニホンザルの個体群の生活の維持に対する森林施業その他の human impact の影響の生態学的研究

東　滋

ニホンザル個体群の地域構造や生活のたてかたに与える人為営力の作用を生態学の文脈においてとらえる。もっぱら"自然"の側の反応を，異なる形式あるいは程度で人為の加わった地域間の比較と，同一地域の時系列的変化の追跡により把握しようとする。下北半島の北西部・南西部の2つの地域個体群についての個体群変動の追跡と岐阜県下の天然林地域と"森林開発"のすすんだ地域の調査を行った。

また平行して，おなじ環境変化がニホンザル以外の森林哺乳動物に与える影響についても調査をすすめている。

6) ニホンザルの社会的発達に関する研究

森　梅代

これまで主に幸島群を対象にコドモの社会的発達の研究を遊び，子守り行動などを通して行ってきたが，比較のデータを得るために，オープンエンクロージャーでの観察を行った。今後両者の比較研究を社会的な場を考慮に入れながら進めていく予定である。

7) スマトラにおける霊長類研究

川村俊蔵

スマトラ自然研究計画による，霊長類研究の一環として今年も50日の調査を行い，クロカンムリヤセザルの地方型の分布状況とそれらの間の行動上の差異をしらべると同時に，インドネシア側の研究の指導を行った。さらにもう一度訪問して，第2次3ケ年計画の準備を行った。

8) 原猿類の社会生態学的研究

東　滋・小山直樹

1980年度の海外調査特別事業として，マダガスカル島北部の森林で同所的に生息する *Lemur fulvus sanfordi* と *L. coronatus* の群間関係，種間関係，個体群構造，食物と空間の利用に関する比較社会生態学的研究を行なった。このまとめとあわせて原猿類と狭鼻猿の community 構造の比較研究を進めた（東）。

1981年度の海外調査特別事業の最終段階として，1982年4月から6月にかけて，マダガスカル島の南部に生息するワオキツネザルの調査を行なったが，特に交尾期の社会行動の観察に焦点をあてた（小山）。

9) アフリカのチンパンジー，その他の霊長類の比較社会・生態学に関するまとめの研究

鈴木　晃

10) ニホンザルの個体群変動におよぼす要因分析の研究

小山直樹

ニホンザルのメスの順位と繁殖成功度との関係を調べているが，Fedigan らと共同で行なった分析から，嵐山ウェスト群ではメスの繁殖成功度は寿命に影響され，順位との相関はみられないという結果がでた。

11) 地域科学の方法論とその実際

鈴木　晃

めまぐるしい地域開発の動きの中で，その土地の自然・文化の質をどのように認識し，将来の土地利用・地域の自然保護に役立てていくかの方法論に関して研究している。具体的には，30群余り

のニホンザルが生息し，半島北部からの開発の波の激しい房総半島での実地調査を1980－1983年の期間行ってきた。成果は「房総半島の孤島性とその文化の研究」としてトヨタ財団「身近かな環境をみつめよう」研究コンクールに提出され，現在そのまとめを印刷中である。

総　説

1) 東　滋（1982）：屋久島の原生林をどう未来に残すか－瀬切川上流の伐採中止をめぐって－。自然保護，239，pp. 6－8。

論　文

1) 川村俊蔵・田中　進・泉山茂之（1983）：強煙火システムによるニホンザルの耕地回避学習実験，Ⅰ。鳥獣行政。
2) Kawai, M., R. Dumbar, H. Ohsawa & U. Mori (1983) : Social Organization of gelada baboons: Social units and definitions. Primates, 24 (1) : 13-24.

報告・その他

1) 鈴木　晃（1982）：房総半島の孤島性とその文化の研究。トヨタ財団「身近かな環境をみつめよう」第1回研究コンクール提出報告書。全200頁。
2) 和田一雄・松沢哲郎・後藤俊二・東　滋・川村俊蔵・長谷川芳典（1982）：食物嫌悪条件づけによる野生生物の食性の統制。昭和57年度科学研究費一般(C)報告，P. 3－6。

学　会　発　表

1) マダガスカル，ベレンティにおけるワオキツネザル（*Lemur catta*）の社会行動。
小　山　直　樹
第27回プリマーテス研究会（1983）
2) 強煙火システムによるニホンザルの耕地回避学習実験，Ⅱ。
川村俊蔵・田中　進・泉山茂之
第27回プリマーテス研究会（1983）
3) チンパンジーの研究をふりかえって。
鈴　木　　晃
千葉県生物学会第300回例会記念講演（1983）
4) ニホンザルにおける食物選択の戦略。
－食物嫌悪条件づけによる食性の統制－
松沢哲郎・後藤俊二・東　　滋
長谷川芳典・和田一雄
第27回プリマーテス研究会（1983）
5) 北限のサルのポピュレーションと行動域は安定しているか。
足沢貞成・東　　滋・増井憲一
鈴木延夫・綿貫　豊
第27回プリマーテス研究会（1983）

変異研究部門

野沢　謙・和田一雄
庄武孝義・峰沢　満

研　究　概　要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究
野沢　謙・庄武孝義・川本　芳[1)]

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し，群内，群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル42群，総個体数約2300頭の血液試料について，約30種の蛋白の構造を支配する計32遺伝子座の検索を行ってきた。1982年度は新たに2遺伝子座を追加した。このデータをもとにして，統計的検討を加え，繁殖単位間の毎代の移出入率，遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い，ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

2) *Macaca* 属サルの系統的相互関係
野沢　謙・庄武孝義・峰沢　満

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から採血を行い，前項1)と同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し，それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝的距離で表現し，それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係，分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。1982年度には，カニクイザル，トクモンキー，セレベスマカクの分析結果を論文化した。

3) ニホンザルの先天的四肢奇形への遺伝的アプローチ
野沢　謙・峰沢　満

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天

---

1)　大学院学生